

Let's ボランティア

第2号
2014年12月

(発行)
赤穂市社会福祉協議会
ボランティアセンター
〒678-0232
赤穂市中広267(総合福祉会館内)
TEL:0791-42-1397
FAX:0791-45-2444
http://ako-shakyo.jp
E-mail:ako-vc@ako-shakyo.jp

“今” 自分にできることを考えよう！

～平成26年度 災害ボランティア研修会～

去る11月29日(土)、「災害ボランティアとして今できることは何か」を考える機会として、災害ボランティア研修会を開催しました。

内容は、「あの日から“今”へ」テーマとし、自身も災害ボランティア活動に積極的に参加されている関西福祉大学社会福祉学部3回生の田中一雄さんを講師に迎え、参加者40名の方々と一緒に、東日本大震災当時のことから、現在・未来で何ができるのか、意見交換を行いました。

次の3つの問いについて、答えを付箋に書き出し、それぞれのグループに分かれて共有しました。

①(過去) 東日本大震災が起きた時、どこで・何をして・何を感じていたか？

- ・ 仕事場のテレビを見ていて知り、初めて見た津波が怖かった
- ・ 阪神淡路大震災を思い出した
- ・ 家族、知人に連絡を取った
- ・ ニュースで逃げている人を見て「早く逃げて！」と思わず言っていた

②(現在) 今、自分に何ができているのか？

- ・ 節電すること
- ・ 募金に協力すること
- ・ 自分には何もできていない

- ・ 避難所の場所を確認し、家族と共有すること
 - ・ 災害ボランティア活動に参加すること
- #### ③(未来) これから、私たちに何ができるのか？
- ・ 研修での学びを伝えること
 - ・ 仲間づくりをして、輪を広げていくこと
 - ・ 自分の健康に気を付けること
 - ・ ボランティア活動に積極的に参加すること
 - ・ 被災地(者)を忘れないこと

◎参加者の感想

- ・ 自分のできることを考えるきっかけになった
- ・ 年代によって意識や立場が違うと思うので、年代間の交流ができる場が日頃から必要ではないかと思った
- ・ 訓練には参加したが、実行するのは難しいと思った
- ・ 老体でも出来ることを考え、行動していこうと思えた

皆さんも一度、“今”だからこそできることを考えてみてはいかがでしょう？



第32回 しあわせフェスティバル～フクシふれあいまつり～ —ささえ愛 ささえ合う・・・人だから—

去る 11 月 16 日(日)、福祉会館全域において「第 32 回しあわ・わ・せフェスティバル～フクシふれあいまつり～」が赤穂ボランティア協会と社協の共催で行われました。

当日は天気にも恵まれ、約 3,300 名もの方々にお越しいただきました。屋外では各グループによる模擬店や恒例の福引抽選会、卵のつかみどり等が行われ、順番を待つ人で長い列ができていました。会館内では、ふれあいアキュラシー大会や点字等の体験ラリー、手作りおもちゃコーナー等が行われ、多くの方が参加されていました。

今回のフェスティバルをステップとして、地域で互いにふれあいや支えあいを考えるキッカケになればと思います。

ご協力いただいた実行委員をはじめとする関係者の皆さん、ありがとうございました！



～今、会いたいボランティア～ (No. 2)



「ボランティアは“生活の励み”」

第 32 回しあわ・わ・せフェスティバル
～フクシふれあいまつり～実行委員長
移送サービスボランティア「てんとうむし」会長
戸谷 喜伴さん (75 歳) (塩屋)

11 月 16 日(土)に開催された「第 32 回しあわ・わ・せフェスティバル～フクシふれあいまつり～」で 実行委員長を務めるなど、様々な活動に取り組まれている戸谷喜伴さんにお話を伺いました。

事務局：活動を始めたきっかけは何だったのでしょうか。

戸 谷：移送サービスボランティア実習講座を受けたことがきっかけではないかと思います。定年退職後、赤穂に長く住んでいて、何か恩返しをしたいと思っていました。そこで、自分に何かできないかと思っていたところ、当時てんとうむしの会長だった方に誘われて受講、そのまま入会し今日に至ります。

事務局：ボランティア活動でやりがいを感じることは何ですか。

戸 谷：てんとうむしでは会長をさせてもらっています。利用してくださっている方から「ありがとう」と言われた時はもちろんですが、会員の皆さんが積極的に活動に参加し、協力してくれることで、自分自身のやりがいにつながっていると思います。

事務局：「第 32 回しあわ・わ・せフェスティバル～フクシふれあいまつり～」では実行委員長も務められましたね。

戸 谷：前回の第 31 回から続けてでした。前回は分からないことが多く、全体を見るのがなかなかできなかったという自分の反省がありましたが、今回は反省を生かして無事に終えることができました。当日は天気も良く、多くの方に来ていただいたので大成功ではないかと思います。準備から片付けまで多くのボランティアさんが関わってくださり、本当に助けていただきました。

事務局：てんとうむしの活動以外に取り組まれていることはありますか。

戸 谷：高齢者大学の講座に参加して勉強したり、クラブ活動でコーラス・グランドゴルフ・ゴルフ同好会に参加し、健康で過ごすために体力作りをしています。仕事がサービス業だったこともあり、色々な人を相手に仕事をしていた経験を今の生活で生かすことができ嬉しく思っています。

事務局：今後の目標を教えてください。

戸 谷：後期高齢者の年齢になったので、無理をせずに今していることを続けていき、人に迷惑をかけるのではなく役に立つように生活していきたいと思っています。

ボランティアグループ紹介

赤穂市ボランティアセンターには43グループ（平成26年12月1日現在）が登録し、様々な活動を行っています。

～MOAひまわり会～

MOAひまわり会は、平成19年8月にボランティアセンターに登録し、現在12名の会員で活動しています。主な活動は、市内施設での花の生け込み、幼稚園での抹茶体験、中学校での心の教室相談員活動です。

花の生け込みは、会員それぞれが学校等の施設に行き、入口などに花を生け、見る人を和ませています。

心の教室相談員活動では、中学校の休み時間に、花の生けられた場所で一服のお抹茶を飲んでもらい、癒しの時間を提供しています。

抹茶体験は、現在市内の幼稚園3ヶ所で行っています。幼稚園では、1回目は会員が点てたお茶を飲んで茶道に親しみ、2回目は園児がお運びをして作法を学び、3回目は園児がお茶を点て、家の人に振る舞うというように、段階を踏んで楽しく学べる工夫をしています。お運びではどの園児もお茶碗を割らないように慎重に行動していました。

「次回はお茶を点てるよ!」という先生の声に、「やったー!」という喜びの声が上がっていました。会員もこうした園児たちとの関わりを楽しみに活動しています。

お花やお茶を通して日本の文化に触れてもらい、笑顔の輪を広げていきたいという思いで、これからも活動を続けていきます。



～赤穂イヤモード～

赤穂イヤモードは、平成6年4月にボランティアセンターに登録し、聴覚障がい者への「聞こえ」の手助けとして要約筆記を行っており、現在13名の会員で活動しています。

「赤穂市福祉のつどい」や「障がい者週間ともに考える市民のつどい」などの各行事で、講演などの内容を即時に文字に要約（変換）し、それを映写して聴覚障がい者へ伝えていきます。「聴覚障がい者」と聞くと、手話によりコミュニケーションをとっているイメージを持たれている方も多いと思いますが、実際に手話で完全なコミュニケーションのとれる人の数は多くはありません。中でも、中途失聴者や難聴者（事故や加齢による失聴や難聴）は、積極的なコミュニケーション手段として手話を覚えることが難しいこともあります。そのため、言語を文字として理解できる識字能力を活用したコミュニケーションが大切となっています。

現在はパソコンに文字を打ち込み、それを映写する方法が主流となってきていますが、パソコンの技術が必要となるため、赤穂イヤモードでは担い手が不足しています。それでも、要約筆記の原則である「速く、正しく、正確に、読みやすく」を大切に、聴覚障がい者へ情報を伝えて続けています。

一緒に活動してくださるメンバーを随時募集中です。詳しくはボランティアセンターまで。



♪♪音楽ボランティア養成講座♪♪

音楽は、人の心と身体を癒し、健康にします。

近年その音楽が療法として注目され、施設などでも利用者と一緒に歌ったり、楽器を鳴らしたりする活動が広がっています。

あなたもそんな活動を始めてみませんか？



日 時 ①平成27年1月30日(金)
② 2月6日(金)
午前10時～正午 <全2回>

場 所 総合福祉会館

対 象 市民 30名

講 師 音楽療法士 柿本 理津子 氏

受 講 料 無料

申込締切 1月23日(金)

※定員になり次第締め切ります。

災害ボランティア養成講座

災害が発生していない日常生活から、災害時のボランティア活動について関心を持ち、自分に何ができるのか、一緒に考えましょう！



日 時	内 容
① 平成27年1月31日(土) 午前10時～正午	赤穂市の防災について学ぼう！ 講 師：赤穂市危機管理担当
② 2月14日(土) 午前10時～正午	「災害ボランティアの心構え・あり方」 講 師 NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク 常務理事 寺本 弘伸 氏

※全2回シリーズ

場 所 総合福祉会館
対 象 災害支援活動に関心のある方
定 員 20名
受 講 料 無料
申込締切 1月23日(金)

お電話 (☎42-1397) またはご来館のうえ、お申込みください

～災害ボランティアセンター開設訓練を実施します～

今年度も赤穂市災害登録ボランティアや赤穂ボランティア協会などに広く呼びかけ、実際の災害時にボランティア活動が円滑に行われるように災害ボランティアセンター開設訓練を実施します。

市民の皆さんもぜひご参加いただきますようお願いいたします。

日 時 2月15日(日) 午前9時～正午

場 所 総合福祉会館

詳しくは、社協 (☎42-1397) までお問い合わせください。



災害登録ボランティア
随時募集中！！
詳しくは社協まで！

個人ボランティア募集中！

赤穂市ボランティアセンターには43の登録グループ(平成26年12月1日現在)がありますが、個人登録ボランティアも多数活躍しています。

介護特別食の調理

栄養士作成のレシピを使い、「減塩・減糖」の介護特別食の調理を行います。

- 日時…毎週月曜・木曜
(どちらかでも可)
午前9時～午後1時
- 場所…総合福祉会館

福祉施設等での特技披露

演芸や手品、腹話術などの特技をお持ちの方！その特技をボランティアに生かしてみませんか？

- 時期・・・福祉施設等からの依頼があれば随時

災害ボランティア登録者

災害時に迅速に被災地救援活動を行うことができるように、災害ボランティアの登録を随時行っています。

登録していただくと、赤穂から被災地へのボランティアバス運行情報はもちろん、年1回開催の災害ボランティアセンター開設訓練や研修会の情報を即時に受け取ることができます。ぜひご登録ください。

その他にもさまざまな活動がありますので、あなたにぴったりの活動を探すお手伝いをします！

編集後記

第2号はいかがでしたか？どのボランティアさんも寒さに負けず、熱心に活動されていて、とてもいきいきしているなあと感じています。『活動先で元気をもらってくる』ボランティア活動の醍醐味です！そういう方がたくさん増えますように☆ (事務局 大崎)